

令和 7 年度 川崎市岡本太郎美術館

事業報告・評価書

(令和 8 年 3 月 3 1 日現在)

川崎市岡本太郎美術館

目 次

1	展覧会事業	
(1)	企画展	1
(2)	常設展	10
2	資料収集・整理、調査研究	15
3	作品の保存・修復、貸出	16
4	普及企画	
(1)	教育プログラム	18
(2)	普及イベント	23
5	広報活動	33
6	施設・設備の整備	37

令和7年度事業経過及び予定について

1 展覧会事業

(1) 企画展

事業名	「岡本太郎と太陽の塔—万国博に賭けたもの」展
会期	令和7年4月26日（土）～7月6日（日）（開催日数 62日）
来館者数	入館者数：27,531人（444/日）※常設展来館者数含む
目標 （数値目標を 示せる事業は 記載）	今から半世紀前、大阪にて、「人類の進歩と調和」をテーマとする日本万国博覧会が開催された。テーマ展示プロデューサーに起用された岡本太郎は、万国博の会場の中心に、テーマ展示の一部として「太陽の塔」を据えた。今なお多くの人々に親しまれている「太陽の塔」だが、当時はそびえ立つその独特な外観で賛否を巻き起こした。また、テーマ展示の構成も「人類の進歩と調和」に異議を唱える岡本の思想が強く打ち出されたものだった。 テーマ展示の地下空間は、「過去・根源の世界」を表現するためにいくつかのゾーンに分かれていた。そのうちの1つ、〈いのり〉の空間では、万国博のために世界各国から収集された仮面や神像などの民族資料が展示された。近代以前の世界各地の風俗・文化に通底する、原初的で生々しい人間の営みを思い起こさせるこの地下展示は、パリ大学でマルセル・モースのもと民族学を学び、帰国後もフィールドワークによって民族学の知見を深め続けた岡本ならではのアイディアだった。 本展では、塔の外部造形が形作られていった過程をたどると共に、地下の〈いのり〉の空間について世界各国の仮面・神像などを中心としてご紹介する。それにより「太陽の塔」、そしてアジアで初めての国際博覧会における岡本の挑戦と、そこに彼が込めた思いに焦点を当てる。また、岡本の著書やフィールドワークの記録を起点として、彼の作品世界を改めて捉え直す機会とする。 ・本展は、2025年の大阪・関西万博の開催にあわせて、改めて1970年の大阪万博のレガシーを振り返るものである。本展は太陽の塔の「入門編」と位置づけるものであり、当時の記録や資料などを多数紹介することで、太陽の塔について分かりやすく紹介する。 ・本展は、当館で開催する2回目の「太陽の塔」展である。2000年に開催した一度目の企画展では詳しく取り上げられなかったテーマ展示の地下空間に着目し、岡本が20代で身に着けた民族学の素養と万博のテーマ展示との繋がりが分かりやすい展示構成を目指す。
内容	■展示構成 1章：民族学との出会い ―パリ時代の岡本太郎 2章：人間の原点を求めて ―取材旅行と執筆活動 3章：万国博前夜 ―「明日の神話」と「太陽の塔」 4章：「太陽の塔」と地下展示 5章：万国博が残したもの ■出品作品 ・岡本太郎作品：油彩、彫刻、ドローイング、岡本太郎撮影写真 他 約130点

	民族資料（昭和女子大学光葉博物館・武蔵野美術大学 美術館・図書館 民俗資料室所蔵） 39 点 ・日本工業大学杉森研究室制作「甦る VR 太陽の塔 Ver.7」（映像資料） ・1970 年万博関連記録・資料 ・《太陽の塔》関連グッズ ■関連イベント ○太陽の塔・ふしぎ発見！スタンプラリー 会期中、幼児向けのスタンプラリー型ワークシートを会場内で配布した。スタンプ付近に問題を掲示し、スタンプを集めながら《太陽の塔》をよりよく知ることができるように工夫した。 配布期間 4 月 26 日（土）～7 月 6 日（日） 場 所 企画展示室入口横 対 象 どなたでも 料 金 無料（要観覧料） 配 布 数 6,855 枚 ○1970 年万博 関連映像上映 谷口千吉監督の「公式長編記録映画 日本万国博」（1971 年）や岡本太郎旧蔵のプライベートフィルム等から万博に関連した音声・映像を上映した。 日 時 5 月 17 日（土）、18 日（日）、31 日（土）、 6 月 14 日（土）、15 日（日）、29 日（日） 上映プログラム 11:00～ 岡本太郎旧蔵プライベートフィルム（32 分） 13:30～ 公式長編記録映画 日本万国博（174 分） 場 所 ガイダンスホール 対 象 どなたでも 料 金 無料 参加人数 延べ 417 名 ○担当学芸員によるギャラリートーク 日 時 ①6 月 1 日（日） 14:00～ ②6 月 28 日（土） 14:00～ 場 所 企画展示室 料 金 無料（要観覧料） 参加人数 ①90 名、②102 名
--	---

[実施状況・成果・課題と今後の対応等]	
・大阪・関西万博とタイミングをあわせての開催だったこともあり、非常に多くのメディアで取り上げていただくことができた。また、偶然にも会期途中で太陽の塔の国の重要文化財指定への答申があり、このこともメディア対応と来館者数の増加に貢献したと思われる。 ・1970 年万博に実際に行かれたことのある方のご来館が多く、関西地方などの遠方からわざわざご来館くださる方もいた。アンケートでは、当時は懐かしむ感想が多く見られた。また、太陽の塔の建設	

に関わった方のご来館も何度かあり、貴重な話をお伺いできたほか、太陽の塔設計者によるトークイベントの来年度以降の開催の約束をとりつけることもできた。さらには、太陽の塔腹部の「太陽の顔」の拡大作業を請け負ったスーパーレジン工業株式会社から会期途中にお申し出があり、会期後半から「太陽の顔」の原型を展示することもできた。本展をきっかけとして、外部の方から非常にたくさんのご協力をいただき、有難く思うと同時に、55年を経過してもなお衰えることのない「太陽の塔」の影響に驚いた。

- ・本展開催のために、今まで未公開だった万博関連記録写真をデジタル化し、スライドショーにして展示室内でご紹介した。他にも未デジタル化の資料は多数あり、今後公開ができるよう計画的にデジタル化を進めていく必要がある。
- ・日本工業大学の杉森研究室の協力で、70年万博当時の太陽の塔の内外を巡るバーチャル映像を上映した。この映像はVRゴーグルを装着して鑑賞する映像データをもととしており、過去7年間に当館で開催したVR体験イベントを総括する展示となった。イベントではなく展示とすることで、これまでの成果がより可視化され、協力者である歴代の学生たちにとって感慨深い展覧会となると同時に、現役の学生にとってはさらなるモチベーションの向上へと繋がった。また、杉森研究室を介しての広報が功を奏し、VRの研究者からも反響があった。
- ・民族学という切り口から70年万博のテーマ展示を振り返る内容について、多くの来館者が新鮮に感じたようだった。岡本が民族学と出会った1930年代から、太陽の塔を構想した1960年代までを時系列で追う内容とし、実際の民族資料も併せて展示したことで、岡本の思想や作品世界への理解がより深まったという感想がアンケートで多数見られた。
- ・一方で、岡本の活動初期からを時系列で紹介する展示構成であったことから、太陽の塔について直接言及する展示スペースが全体の3分の2程度になってしまった。また、岡本の思想や作品世界に着目したテーマ設定であったため、太陽の塔の構造や工法等、技術面についてはあまり紹介することができなかった。国の重要文化財への指定理由が技術面の評価に拠るものであったこともあり、アンケートでは技術面についてより知りたかったというご意見もいただいた。幸い、本展の開催により太陽の塔の設計者とのコネクションができたため、来年度に太陽の塔について技術面を切り口として紹介する事業（太陽の塔の設計者によるトークショー）を計画している。
- ・図録は会期終了約1週間前に完売した。また、図録を購入できなかった方が代わりにポスターを購入されることも多く、ポスターもほぼ完売となった。図録が完売した要因としては、一般書籍として流通している太陽の塔関連の書籍は比較的大型で高額なものが多いのに対して、本展の図録はコンパクトかつ手頃な値段だったことも一因として考えられる。

【自己評価】[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

A	【評価の理由】 本展では、大阪万博のテーマ展示の地下空間に着目し、岡本が学んだ民族学との繋がりを分かりやすく紹介できるよう努めた。各種メディアや来館者アンケートなどでの反応はポジティブなものが多く、目標は十分に達成できたと思われる。 また本展では、2000年に開催した太陽の塔展とは異なる視点で関連作品・資料を紹介し、そのなかでも特に4章の民族資料の実物展示が大変好評だった。さらに、会期中の取材対応は71件とかなり多く、大阪・関西万博開催と国の重要文化財指定への需要の高まりにタイミングよく対応することができた。
---	--

A	*評価できる点や課題など ・大阪・関西万博と「太陽の塔」重要文化財指定とタイミングを合わせて開催し、集客に効果があっただけでなく、万国博における岡本太郎の仕事について再考するとともに良い機会となった。 ・万博とタイミングを合わせて展示を行ったことで、世代や興味関心が異なる来館者を呼び込むことができた。また、民俗学などアートと近接する別領域の視点を入れたチャレンジによって、岡本太郎の世界観の幅広さを伝えることができた。 ・2025年の大阪・関西万博の開催時期に会期をあわせ、1970年の万博での太陽の塔を検証する展覧会は、時事的な話題性もありつつ、歴史的な視点からあらためて岡本太郎と太陽の塔の意味を今に問う意義深い。 ・時宜にかなった企画であるとともに、Expo70当時の日本のもっていた活力を象徴する《太陽の塔》を再検証することは意義あるものである。岡本太郎という異彩を放つアーティストを見つめなおす好機となったと思う。 ・大阪で開催中の万博に対抗させるべく重要な企画であり、太郎美術館でなければできない内容であった。「太陽の塔」が残ったことによって70年万博にどんな意味があり、「2025万博」の意義も明らかになってくる。
---	---

事業名	「戦後80年《明日の神話》次世代につなぐ 原爆×芸術」展
会期	令和7年7月19日（土）～10月19日（日）（開催日数79日）
来館者数	入館者数：28,038人（355人/日）
目標 （数値目標を示せる事業は記載）	戦後80年を迎える今年、戦争や被爆の記憶を次世代につなげる展覧会を開催した。広島県の爆心地に程近い基町高校では、創造表現コースの生徒たちが被爆者から半年以上の時間をかけて話を聞きとり、その記憶を「次世代と描く原爆の絵」として描く活動を20年近く続けている。現代の高校生の手によって、被爆者が語る被爆の実体験が次世代へと受け渡されている。この「原爆の絵」、そして岡本太郎の作品に加え、同じように核の問題に取り組む、現代の第一線で活躍する作家たちの作品によって本展を構成した。 岡本太郎は30歳のときに中国の戦線に送られ、戦地で過酷な日々を経験した。復員後は、戦火で全てを失いながらも猛然と活動を再開。社会にメッセージを投げかける作品を次々と発表。岡本が核をテーマに挑んだ代表作《明日の神話》は、広島と長崎に落とされた原爆やビキニ環礁での水爆実験を題材としている。核の惨禍を乗り越えてなお、明日に向かって生きる人間像が描き出された。 現代のアーティストたちもまた、戦争や原爆の記憶を、過去の出来事とするのではなく、現代に生きる私たちの問題として次の世代に向けた作品を制作している。核の問題は、原水爆だけでなく原発事故など、現在の私たちの身近にも存在している。戦争もまた、テロや侵略、報復という文脈で行われ、現在も様々な形をとりながら世界各地で続いている。本展では、80年前の戦争の記憶を起点として、現在の私たちを取り巻く様々な問題を題材に、独自の視点で表現する9組の作家の作品を紹介した。 ・「次世代へつなぐ」をテーマとしていることから、若者の来館数増を目標とする。 ・戦後80年に当たり、市民の社会的な学習や思考の補助となりえる展示内容とする。 ・会期中に夏休み期間があることから、家族連れや若年層の来館が見込めるため、忌

	避されないような展示を心掛ける。 ・海外からの来館者や若年層も入り込みやすい展示方法を心掛ける。 ・常設展と企画展、ガイダンスホールを使用することで、展示内容の充実を図る。 ・会期中、現代作家や基町高校の卒業生、ゲストによる関連イベントを複数回開催し、展覧会への関心を高める。
内容	■展示構成 1 部：次世代と描く原爆の絵（企画展示室） 2 部：現代アーティスト（常設・企画展示室・ガイダンスホール） 3 部：岡本太郎（常設・企画展示室） ■出品作品 ・岡本太郎作品：油彩、彫刻、ドローイング、岡本太郎撮影写真 他 約 120 点 ・広島市立基町高等学校・創造表現コース制作「次世代と描く原爆の絵」 42 点 ・現代アーティスト：安藤榮作、後藤靖香、笠木絵津子、小林エリカ、蔦谷楽、富安由真、安喜万佐子、米谷健+ジュリア、李晶玉 計 25 点 ■関連イベント ○「原爆×芸術」展開催記念 特別講演・クロストーク 被爆体験を国内外へ伝え続ける活動を行う小倉桂子氏をお招きし、第 1 部では特別講演を、第 2 部では出品作家とのクロストークを行った。 第 1 部 特別講演 講 演 小倉桂子（平和のためのヒロシマ通訳者グループ代表） 第 2 部 出品作家によるクロストーク 出 演 米谷健+ジュリア、蔦谷楽／ゲスト：小倉桂子／進行：土方明司（当館館長）、加藤志帆（当館学芸員） 日 時 7 月 19 日（土）14:00～16:00 場 所 企画展示室 料 金 無料（要観覧料） 参加人数 第 1 部 134 名、第 2 部 135 名 ○出品作家によるリレートーク 日 時 7 月 20 日（日）14:00～15:30 出 演 安藤榮作、後藤靖香、安喜万佐子 場 所 常設展示室・企画展示室 料 金 無料（要観覧料） 参加人数 165 名 ○出品作家によるトークイベント ①小林エリカ 日 時 7 月 27 日（日）14:00～15:00 場 所 企画展示室 料 金 無料（要観覧料） 参加人数 38 名

②富安由真	
日 時	8 月 9 日（土）14:00～15:00
場 所	ガイダンスホール
料 金	無料
参加人数	51 名
③李晶玉	
日 時	9 月 7 日（日）14:00～15:00
場 所	ガイダンスホール
料 金	無料
参加人数	44 名
○基町高校卒業生＋東京造形大学山田ゼミによる	
ギャラリートーク・ワークショップ	
日 時	8 月 22 日（金）13:00～15:30
講 師	山田猛（東京造形大学教授）、一ノ間照美、竹本茜、横山栞央
対 象	小学校高学年から 30 歳以下の方
場 所	企画展示室、ガイダンスホール
料 金	無料（要観覧料）
参加人数	27 名
○笠木絵津子映像プロジェクト「現代物理への旅」トークショー	
日 時	8 月 23 日（土）14:00～16:00
ゲ ス ト	佐藤文隆（京都大学名誉教授）※都合により欠席、小沼通二（慶應義塾大学名誉教授）、杉山厚子（第五福竜丸元漁労長 見崎吉男氏長女）、安田和也（第五福竜丸展示館学芸員）、高橋将太（名古屋大学素粒子宇宙起源研究所科学コミュニケーター）
進 行	笠木絵津子（出品作家）
場 所	ガイダンスホール
料 金	無料
参加人数	53 名
○基町高校卒業生によるトークイベント	
日 時	①8 月 31 日（日）、②9 月 14 日（日）、③9 月 21 日（日） 各回とも 14:00～15:00
①8 月 31 日（日）	
出 演	小川美波（証言者：笠岡貞江）、谷口世那（証言者：川崎宏明）、 持田杏樹（証言者：迫田勲）
場 所	企画展示室
料 金	無料（要観覧料）
参加人数	45 名
②9 月 14 日（日）	
出 演	桂木晋作（証言者：李鍾根）、小野（大迫）美晴（証言者：川崎宏明）、 門脇友春（証言者：河野キヨ美）
場 所	企画展示室
料 金	無料（要観覧料）
参加人数	190 名

③9月21日（日）	
出 演	猿田起之（証言者：末岡昇）、大原萌里（証言者：八幡照子）、 持田杏樹（証言者：迫田勲）
場 所	企画展示室
料 金	無料（要観覧料）
参加人数	77名
○担当学芸員によるギャラリートーク	
日 時	①10月5日（日）、②10月12日（日）、③10月13日（月） 各回とも 14:00～15:00
場 所	常設展示室、企画展示室
料 金	無料（要観覧料）
参加人数	①67名 ②64名 ③76名

【実施状況・成果・課題と今後の対応等】

- ・戦後 80 年の節目となる年に原爆をテーマとする企画展としたためか、本展には大きな反響があり、メディアでも多数とりあげられた。
- ・基町高校の生徒たちが描いた「原爆の絵」については、複製画はこれまでも全国的に紹介されてきたが、原画が広島県外で紹介されることは少なく、関東では初となる。特に本展では 42 点を紹介したが、広島県外の美術館で同規模で紹介されることがなかったため、メディアにも来館者にも大きな反響をいただいた。
- ・本展の開催にあたって、被爆体験の通訳者グループの代表であり、ご自身も被爆者である小倉桂子氏のご賛同をいただき、本展に寄せたメッセージをいただくとともに、内覧会でのプレス対応や開幕初日の特別講演と出品作家とのクロストークにご出演いただいた。小倉氏は、広島市内で開催された G7 では、各国首脳への通訳を務め、メディアに大きな影響力のある方であり、本展にご協力いただけたことで、展覧会を広く周知させることができた。
- ・岡本太郎についても、原爆や水爆など「核」や社会的なテーマを切り口に、《明日の神話》をはじめとする作品や岡本の言葉を改めて紹介できたことは、大きな意義があったと思う。
- ・本展で紹介した現代作家 9 組は、本展の「次世代につなぐ」というテーマから、原爆の悲惨さを伝えるだけでなく、現在を生きる次世代の若者に訴えかけるような作品を制作する、本展のテーマにふさわしい作家を選定した。また、作品の選定については、来場者の多様な興味や関心に応じることができるよう、絵画や彫刻、インスタレーション、映像作品など、幅広いジャンルから作品を選定した。アンケートでは、今回選定した 9 組がそれぞれの作品で好評をいただいております、目的を達することができたのではと考えている。
- ・会期中には、出品作家によるトークイベントをはじめ、基町高校の卒業生によるトークイベント、東京造形大学の山田ゼミとの協働によるワークショップなど、多くの関連イベントを開催した。特に基町高校の卒業生によるトークでは、卒業生が作品制作時の様子や自身の思いなどを真摯に語り、多くの参加者が熱心に耳を傾けていた。
- ・本展は、原爆という重いテーマであったにも関わらず、夏休み期間に開催していたことから、親子連れの方や中高生のグループが多く来館していた。また学生など 20 代の若者も多く来館していた。またアンケートから、東京、神奈川以外にも、広く全国から来館されたことがわかる。
- ・また本展では、海外からの来館者も多かった印象がある。「原爆と芸術」というテーマが国内だけでなく、海外の方の関心を引いたのではないかと考えている。本展では、挨拶文や小倉氏のメッセージ、

出品作家の略歴、全ての作品のキャプションに英語表記を記載し、外国の方にも一定の対応ができたと考えているが、全ての解説にも英語表記が必要であると感じた。

- ・本展の図録については、大変好評をいただき会期終盤に完売となった。現代作家を扱うグループ展でもある本展の性格上、通常の企画展と同様の数の1,000部を印刷したが、想定を超える販売数となった。

【自己評価】[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

A	【評価の理由】 本展は「原爆」という重いテーマを扱い、また現代作家による作品を取り上げていることから、開催前はどのような反響となるかわからなかったが、基町高校の「原爆の絵」を取り上げたこともあり、予想以上の反響があり、来館者も多かった。 アンケートの結果からも「原爆の絵」を紹介することの大きな意義を感じた。 現代作家9組についても、本展の企画意図を汲み取り、本展にふさわしい作品を出品していただけたと考えている。 実施状況欄に記載した通り、本展の目標を十分に達することができたと考えている。
---	---

【外部評価】[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

[委員記入欄]

A	*評価できる点や課題など ・原爆の惨状について正面から受け止めながら、芸術表現として昇華した極めて優れた展示内容となった。 ・戦後80年となった現代の社会を、岡本太郎と今を生きるアーティストたち、そして、広島の高中生たちが被爆者に聞き取った体験の表現を通して映し出すことで、鑑賞者に未来を考える機会を提示した。アーティストの選定が良かったこと、また彼らと鑑賞者が直接出会えるイベントの開催も評価できる。 ・戦争と被爆の記憶を今と未来につなげるという主題のもとに、発信性の高い現代のアーティストや高校生を取り入れたよい企画であった。とくに若者層への発信を強化したためか、会場には多くの若い鑑賞者がみられたのも印象に残った。岡本太郎の国際的な発信を広げるためにも多言語化などは積極的に進めていただきたい。 ・現在の社会状況を俯瞰すると、非常に厳しく危険な状態にある。弱肉強食のジャングルに人類が立ち戻ってしまわないようにするために、美術や言葉や音楽が、その支えになることを痛感する企画だった。複雑に織り込まれた世界は、小さなほころびから裂け目につながる。今後も、岡本太郎の表現を核としつつ、こうした企画を発展させていきたいと考える。 ・高校生の作品を全体の中軸に構成することによって単なる記念展を超越する結果になった。それに9人の現代アーティストの「核」についての自作品と岡本太郎の「明日の神話」とのバランス、テーマは重いが問いかけるものはたくさんある。
---	--

事業名	「第 29 回岡本太郎現代芸術賞（TARO 賞）」展
会期	令和 8 年 1 月 31 日（土）～令和 8 年 3 月 29 日（日）
来館者数	入館者数：33,930 人（692 人/日）
目標 （数値目標を 示せる事業は 記載）	「岡本太郎現代芸術賞」展は、岡本太郎の精神を継承し、自由な視点と発想で、現代社会に鋭いメッセージを突きつける作家を顕彰するため設立された。今年で 29 回目をむかえる本賞を通し、21 世紀における芸術の新しい可能性を探り、意欲的な作品を紹介する。
内容	第 29 回 TARO 賞には、644 点の応募があり、21 組の作家が入選した。 最終審査の結果は以下の通り。 岡本太郎賞：高田 哲男《FUKUSHIMA5000》 岡本敏子賞：馬場 敬一《死と再生のイニシエーション》 特別賞：宇佐美 雅浩《Manda-la in Hiroshima 80 years after the atomic bombing》、櫻井 隆平《Rotating objects No.3: too close to be real》、鈴木 藤成《僕と鬼の云々》、Soma Tsuchida《自己完結型創造症候群》、みずかみ しゅうと《4 羽のメジロのための棺桶》、吉村 大星《丁寧な対話》 入選：安西 剛、太田 遼、KUMO (YUKI MORITA & RYUDAI MISAWA)、黒木 重雄、Shinon Matsumoto、鈴木 美緒、田辺 朋宣、徳本 道修、西久松 友花、Hexagon artist®、ミカ星（オガワミチ＋石倉かよこ＋舘星華）、毛利 華子、山田 徹 会期中は関連イベントとして、来場者による人気投票、来場者から作家への「お手紙プロジェクト」を実施。また、入選作家によるリレートークを会場内で開催し、その様子は、後日当館公式 YouTube チャンネルにアップする。

[実施状況・成果・課題と今後の対応等]
・今回は、主催者である岡本太郎記念現代芸術振興財団の意向で、現代美術家の福田美蘭氏をゲスト審査員に迎えた。 ・例年、TARO 賞展は翌年度の 4 月半ばまで開催するが、休室スケジュールの都合上、今回は年度内で会期を終了させる。そのため、開催期間を例年並みに確保するために、例年よりも 1 か月程度早く準備を進めた。 ・応募開始と締切を例年より 2 週間早めたため、応募者が混乱してしまうことを懸念していたが、大きなトラブルもなく準備を進められた。 ・TARO 賞は情報解禁日時が厳しく設定されているが、公式発表よりも先に個人の SNS で入選を報告してしまった作家がいた。次回以降は、公式発表前に入選報告は控えるよう入選通知に加えたい。なお、この件から担当内で作家の SNS 運用ルールを検討し、お知らせを全作家へ配付した。それ以降 SNS に関するトラブルは発生しなかったため、今後も配付を継続したい。 ・例年と異なり、年明けではなく年末（12/19-21、12/26-28）に搬入・設営を行った。作家からは、作品輸送用のトラックや設営の人員を確保することが平時よりも難しいという声が多数あった。今回はイレギュラーなスケジュールだったとはいえ、次回以降は年末間際の設営を避けたほうが良いと感じた。 ・搬入・設営の際に、下見・打ち合わせの際に美術館側が説明した注意事項等を忘れてしまっている作家が数名いた。注意事項がかなり多いため仕方のない部分もあるが、次回以降はよりコンパクトに分

かりやすく伝えられるよう工夫したい。

- ・例年会期が始まってからリレートークのスケジュールを調整していたが、今回は遠方在住の作家が多かったため会期前にスケジュール調整を終えた。結果、広報の準備にかなり余裕を持つことができた。

【自己評価】[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

A	【評価の理由】 今回はイレギュラーなスケジュールリングであったが、特に大きな混乱もなく準備を進めることができ、21 作品による展覧会を無事に開催することができた。作家の SNS 運用ルールの作成など、トラブルに関しても都度適切に対応することができた。 会期中のイベントについても計画的に準備を進めることで、確実に実施することができた。特にリレートークは、スケジュール調整を前倒しにすることで、広報を例年よりも強化することができた。
---	--

【外部評価】[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

[委員記入欄]

A	*評価できる点や課題など ・選定された作家について「岡本太郎現代芸術賞」としての個性を感じることができるとともに、時代状況に対する批評的な視点が明確になっている。 ・公募展ということ、また、約 30 年間継続してきたことによってできあがってきたブランドによって、世界の状況を映し出す展覧会として機能している。美術館という社会教育施設が存在する意義を感じることができた。今回、福田氏がゲストキュレーターとして参加したように、外部の視点が入ることが良い効果を生むと感じる。 ・回を重ね、応募者も力がいっていることがうかがえる。福田美蘭をゲスト審査員として迎えたことも功を奏したのではないかと思われる。業務の点では経験を重ねる中で改善、進化させている様子もうかがえ、さらに円滑な運営が期待される。 ・これまでのすべての同展を拝見していないが、今回も質量ともに十分な作品が選出されたと感じた。応募者数も十分な数字と思える。ただ、回数を重ねることから生じるメリットとデメリットを検証すること、また、過去の受賞者の追跡や親交、人材としての活用などについても検討し、この芸術賞のさらなる充実を期待する。 ・多少マンネリ化の作品も見られたが、アートとして社会に真摯に、かつユーモアをもって向き合っている作品が好ましかった。
---	--

(2) 常設展

事業名	「オカモト・ア・ラ・モード おしゃれの法則」展
会期	令和 7 年 4 月 17 日（木）～7 月 13 日（日）
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	「生活の中に色や形が溶け込んでいくことこそ、芸術としての意味がある」 様々な分野において型をやぶろうとしてきた岡本太郎。 フランスから帰ってきてから、日本の色彩はくすんでいるといった発言をたびたび繰り返している岡本は、手近な芸術的表現としてファッションについて言及しています。若き日に学んだ民族学、そして文化人類学の知見から、人間にとっておしゃれと

	は、肉体をより一層引き立てることから始まっており、おしゃれはたたかいなのだと、岡本は考えていました。 ネクタイ、スカーフ、浴衣の生地、婦人服、法被、カフスボタン、各種アクセサリ等、絵画や彫刻だけでなく、ファッションデザインも多く手がけた岡本の「おしゃれ」に関する考え方とともに、岡本の作品を紹介します。 ・岡本太郎のおしゃれに対する価値観にスポットを当てる。 ・《クリマ》《犬》などの著名な作品から、《疾走する眼》《駄々っ子》《飲び》などの人気の作品も展示しつつ、同時開催の「岡本太郎と太陽の塔展」を一部補足するような展示内容とする。 ・ゴールデンウィークに期間がかかること、同時開催の「岡本太郎と太陽の塔展」に訪れる来館者が、普段美術館に来られない方もいらっしゃることを想定し、難解でなく、それでいて岡本太郎を伝えることが出来る内容、雰囲気づくりに努める。 ・岡本太郎や芸術表現を身近に感じて貰えるような内容とする。
内容	■展示構成 ・おしゃれの文化人類学 - 日本のおしゃれ - 岡本かの子 ・色彩 - デッサンタッチ - 学生服論争 ・組み合わせ - かたち - 岡本太郎の服装 - 寿二人三番叟 ・美しいときれい - 現代の岡本モード ■出品作品 岡本太郎作品、岡本一平作品、岡本かの子作品、岡本太郎収集資料など 142 点 ■関連イベント ○担当学芸員によるギャラリートーク 日 時 ①5 月 24 日（土）②6 月 21 日（土） 各日 14:00～14:30 場 所 常設展示室 料 金 無料（要観覧料） 参加人数 ①23 名、②49 名（申込不要）

[実施状況・成果・課題と今後の対応等]	
・展示内容の補足としてパネル資料も多めに展示した。 ・2 室のバックパネル展示部分に、人が立ち入りやすかったため結界に代わる案内を追加した。 ・「ネクタイやスカーフが欲しい」「岡本太郎コラボのファッショングッズが欲しい」などの声を聴くことがあり、同じものはないものの売店を御案内した。	

【自己評価】[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

A	【評価の理由】 岡本太郎のおしゃれに関する価値観に焦点を当てつつ、同時開催「岡本太郎と太陽の塔展」を補足するように、岡本太郎の価値観を提示することが出来た。また来館者の声、アンケートから、意外性や共感性を伴う感想を多くいただいた。SNSの反応では、常設展にピックアップして言及いただいている投稿も複数あり、反応は良好だった。
---	--

【外部評価】[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

[委員記入欄]

A	*評価できる点や課題など ・作家への深い理解に基づき、広範な層への訴求力のあるテーマを的確に選んでおり、担当者の優れた企画性が認められる。 ・「おしゃれ」という、良い意味での軽みを感じさせるが、同時にその人の価値観を垣間見せる、とても良いテーマ設定だった。実際、展示を拝見したが、多くの鑑賞者が、「おしゃれ」という自分自身も行っている行為を入りに、太郎の作品と世界に入り込み、鑑賞を行えている様子を拝見できた。 ・岡本太郎という一人の作家をめぐる常設企画は苦慮すること多いかと推察するが、毎回工夫が見られる。企画展のテーマと関係づけながらも親しみやすいテーマやタイトルによる常設展は若い世代やファミリー層にも好感がもたれると思う。 ・意外性のある企画である。収蔵作品をつかって企画性をもたせるための工夫の好例といえる。展覧会のネーミングにも工夫があり、来館動機につながる要素をもっている。今後も、思わぬテーマの発案を期待したい。
---	--

事業名	「岡本太郎 生きることは遊ぶこと」展
会期	令和7年10月28日（火）～令和8年3月29日（日）
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	何事に対しても全身全霊で挑み続けた岡本太郎。絵を描くこと、彫刻を彫ること、文章を書くこと、写真を撮ること、ピアノを弾くこと、スキーやテニスに熱中すること、旅すること…。ジャンルを超えた岡本の芸術活動と生き方の根底には「遊び」の精神が息づいていた。 岡本は、20代を過ごしたパリにて世界のあらゆる文化や思想に触れ、パリ大学にてマルセル・モースのもと民族学を学んだ経験を通じて、人間の文化・生活における「遊び」について考えるようになった。たとえば、「まつり」を宗教や政治、芸術すべてを集約した真剣な「遊び」と捉え、旅行や遊学は「自由に動くことは遊びの最たるものの一つ」であると述べている。 本展では、岡本太郎の人生と芸術における「遊び」に焦点をあて、所蔵作品、関連資料を展示する。 ・絵画・彫刻、インダストリアルデザインの他、岡本が撮影した写真や関連資料を通して、岡本の遊びと創作の関係性、岡本の考える人々の生活や娯楽、日本各地の祭りについて紹介する。 ・展示室休室前最後の常設展となることから、絵画作品を中心に、所蔵品から必見の代表作を紹介する。

	・ 本年 8 月 22 日、映画「大長編タローマン万博大爆発」が全国ロードショーされ、話題を呼んだ。この映画には、岡本太郎作品がモデルとなった多数のキャラクターが登場するとともに台詞に岡本太郎の言葉がたびたび引用される。本展では、映画と関連した作品展示を試みる。 ・ 令和 8（2026）年 3 月 30 日から令和 11（2029）年 3 月末までの期間、館内展示室での展覧会の開催を休止する予定であり、本展が当館にて岡本太郎作品を一堂に鑑賞できる休室前最後の機会となることから、SNS 等を活用し、展覧会の情報を積極的に発信する。 ・ 会期が 10 月末から 3 月末と長期のため、会期中一部作品の入れ替えを行う。
内容	■展示構成 第 1 章：「岡本太郎芸術に遊ぶ」「祭りはいきがい」「遊ぶ字」 第 2 章：生活を彩る「遊び」 第 3 章：彫刻、立体作品と「遊び」 ■出品作品 ・ 岡本太郎作品：油彩、彫刻、インダストリアルデザイン、陶器、岡本太郎撮影写真 他 約 120 点 ・ 岡本太郎のプライベート映像及び写真資料 ・ 岡本一平、岡本かの子作品 ・ 関連記事、文字資料等 ■関連イベント ○担当学芸員によるワンポイントトーク 日 時 ①11 月 22 日(土) ②12 月 6 日(土)・③1 月 12 日(月祝) ④2 月 8 日(日) ⑤3 月 14 日(土) 各日 14:00～ 場 所 常設展示室 料 金 無料（申込不要、要観覧料） 参加人数 ①167 名 ②138 名 ③91 名 ④33 名 ⑤ — ○「タローマン大万博 川崎パビリオン」 内 容 映画『大長編 タローマン 万博大爆発』の撮影で使用されたタローマンや奇獣たちの衣装や小道具を展示したほか、劇中でタローマンマニアとして出演したサカナクション・山口一郎さんの“コレクション（設定）”などの資料を紹介した。 期 間 10 月 28 日（火）～12 月 14 日（日） 場 所 企画展示室 料 金 無料 協 力 NHK エデュケーショナル、豪勢スタジオ 参加人数 20,810 名（常設展入館者を含む）

【実施状況・成果・課題と今後の対応等】

- ・通常、企画展のバナーを掲出している生田緑地東口ビジターセンター前の看板に本展の告知バナーを掲出し、広報宣伝に注力した。
- ・チラシの増刷やプレスリリースの内容を充実させた。
- ・展覧会に親しみを感じてもらえるように、ポスターやパネルのデザインやフォントをポップで明るいイメージで統一した。
- ・展覧会のテーマと出品作品との繋がりを明確に伝えるために、作品とともに岡本太郎の「遊び」にまつわるテキストを引用した解説パネルを設置した。
- ・岡本太郎のプライベート映像と写真のスライドショーを上映し、スポーツや旅、創作に遊ぶ岡本太郎の様子を伝えた。
- ・ワンポイントトークの参加者が多く、参加者の誘導やトークの時間などに配慮する必要が生じた。
- ・映画「大長編タローマン万博大爆発」の関連企画として、映画で使用された衣装や小道具を紹介する「タローマン大万博 川崎パビリオン」を開催したところ、予想以上の反響があり、常設展についても高い関心を寄せていただいた。
- ・「タローマン大万博 川崎パビリオン」開催により、幅広い客層に常設展を鑑賞いただいたが、美術館でのマナーに不慣れな来館者や、推し活目的、撮影目的の客層も目立ち、看視スタッフが対応に苦労した面も見受けられた。

【自己評価】 [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

A	【評価の理由】 本展では、作品や関連資料、岡本太郎のテキスト、解説文を通して岡本太郎の「遊び」に対する考えを提示することができた。専門性を意識しつつも、幅広い客層にとって親しみやすい展覧会の構成を心がけた。また、常設展のみの開催期間が長いこと、改修工事前最後の常設展であることを考慮し、代表作を多く出品するとともに広報宣伝、関連イベントを充実させた。この結果、メディア等で紹介いただく機会も多く、注目度の向上につながり、来館者の増加に繋げることができた。アンケートやSNSの反応も良好と言える。
---	--

【外部評価】 [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

[委員記入欄]

A	*評価できる点や課題など ・作家への深い理解に基づき、広範な層への訴求力のあるテーマを的確に選んでおり、担当者の優れた企画性が認められる。 ・「遊ぶ・遊び」という人間にとって本能とも言う行動は、岡本太郎の表現に通底するもので、コレクションを読み解くキーワードとしてとても良かった。広報に工夫をこらしたり、展示と鑑賞をつなぐ解説パネルなどに力を入れたこと、タローマンとの連携も評価できる。 ・「遊び」をキーワードにしながら、岡本太郎の思考や創作を紹介するのは子供たちにもよい刺激になるだろうと思われる。改修休室前の常設展ということで多くの代表作を展示したのは、今後にもつながるいい内容であった。 ・数ある収蔵作品のなかから厳選した作品群は、岡本太郎に接するに相応しいもので、工事休館を意識し、太郎ファンの心をつかむ企画である。「オカモト・ア・ラ・モード おしゃれの法則」展とのコントラストもあり、素敵な展示内容と受け取れた。
---	--

2 資料収集・整理、調査研究

事業名	資料収集・整理、調査研究
目標 (数値目標を 示せる事業は 記載)	- 岡本太郎・一平・かの子に関連する資料、ならびに岡本太郎と同時代に交流のあった作家の作品資料を収集する。 - 岡本太郎、関連作家による寄贈資料について、整理と調査研究を進める。
内容	岡本太郎と関連作家、岡本太郎作品と関連の深い作品資料の収集 岡本可亭・一平・かの子およびその関連作家の資料を収集 岡本太郎没後に制作されたインダストリアルデザイン、関連グッズ等も収集する。

[実施状況・成果・課題と今後の対応等]
[資料収集] ○令和7年度購入資料 - 浅井裕介《残響》2024年、アルミパネルに土、弁柄、炭、アクリル、アクリルレジ、200×200 cm ○令和7年度寄贈資料 - 岡本一平《金剛山實寫帖》1929年、折本（紙、墨、絵具）、17.8×11.8×2.4 cm（松原氏寄贈） - 浅井裕介《命の足音一生田の森》2024年、木製パネル、土、弁柄、炭、アクリルレジ、123.5×86.5 cm（作家及び所属ギャラリーより寄贈） [資料整理と調査研究] - 今年度は年間計画に沿って、岡本太郎半切プリント制作、岡本太郎撮影フィルム、北代省三撮影フィルム及び、岡本太郎関連映像を中心に、デジタル化業務と整理作業を進めた。

【自己評価】[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

A	[評価の理由] 昨年度秋季に開催した開館25周年展に出品された浅井裕介氏の作品のうち、岡本太郎作品や生田緑地との関連性が深い2点について、作家と所属ギャラリーの協力のもと、購入と寄贈により収蔵することが出来た。いずれも岡本太郎から触発されて生まれた作品であり岡本作品とも呼応する内容であり、今後の常設展等でも大いに活用できる資料となる。 また岡本一平作品については、岡本一平が漫画家として一世を風靡していた頃に朝鮮半島を訪れ描いたものであり、岡本の新たな足跡を示す重要な資料である。展示や研究に活用できる資料を収集することが出来た。 資料整理と調査研究については、優先順位をつけながらデジタル化業務などを進め、予定していた作業を進めることができた。また次年度からの外部倉庫移管に備えてネガフィルムの整理も行った。
----------	---

【外部評価】[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

[委員記入欄]

A	*評価できる点や課題など - 不断の調査研究が優れた事業展開につながっている。 - 浅井氏のような、岡本太郎と思想・表現においてつながりをもつ現代作家の作品の
----------	--

	購入は、今後の美術館活動の拡張につながる。また、継続して写真、動画といった資料をデジタル化している点も評価できる。 ・今年度、購入した浅井裕介作品は、昨年開催した展覧会に出品されたゆかりのあるもので、そのこと自体は大変好ましく思われるが、一方で、事業目標のなかにこうした現代作家の収集が記載されていないので、今後、現代作家の作品の収集を積極的に進めることを視野にいれているのであれば、目標としてその旨記載したほうがよいのではないか。 ・資料の収集にあたっては、作品と関連資料の区分けなどもあると思うが、それぞれの総数管理は重要な業務と考える。また、収蔵庫の増床などの拡充についても、今後の課題として設定していただきたいと思う。博物館の運営基準改正案が出されていることも鑑み、資料の保管体制についての館としての考えの整理が必要である。 ・岡本一平の新たな資料は価値ありと評価できる。
--	---

3 作品の保存・修復、貸出

事業名	作品の保存・修復、貸出
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	・所蔵作品及び資料の保存・管理業務を適切に行う。 ・館内の良好な環境を維持する。 ・所蔵作品及び資料について、当館の展示や他館への貸出の調整を適切に行う。
内容	・所蔵作品・資料について状態調査や作品調書整備等の管理業務を定期的に行い、作品・資料の状態を把握する。 ・所蔵作品・資料について作品修復業務、燻蒸業務など適切に処置する。 ・環境調査、酸アルカリ調査、温湿度調査、収蔵庫とその周辺の清掃作業など環境整備を定期的に行う。 ・所蔵作品・資料について状態の確認をし、保存及び作品の状態を考慮した貸出を行う。併せて当館での展示に支障が生じないよう貸出の調整を行う。

[実施状況・成果・課題と今後の対応等]
[作品貸出] ・岡本太郎《顔Ⅲ》を開館 35 周年記念展「美術と野獣―人間の根源へ」(会期：令和 7 年 10 月 4 日(土)～12 月 14 日(日)、会場：徳島県立近代美術館)に貸出 ・岡本太郎《遭遇》を「日曜美術館 50 年展(仮称)」(会期・会場：令和 8 年 3 月 28 日(土)～6 月 21 日(日) 東京藝術大学大学美術館、令和 8 年 7 月 18 日(土)～9 月 27 日(日) 静岡県立美術館、令和 8 年 10 月 10 日(土)～12 月 20 日(日) 大阪中之島美術館)に貸出予定 ・岡本太郎作品 58 点、岡本太郎撮影写真 23 点、作品パネル 10 点 計 91 点を「なんだこれは! 岡本太郎」展(会期：令和 8 年 3 月 20 日(金・祝)～5 月 6 日(水)、会場：鹿児島市立美術館)に貸出予定 [画像貸出] ・岡本太郎作品 3 点及び撮影写真 50 点の画像データを” Exhibition: Taro Okamoto, Japan

reinvented”（会期：令和7年4月15日～9月7日、会場：ケ・ブランリー美術館（フランス））に貸出

- ・岡本太郎作品画像15点を「岡本太郎 光る彫刻『生誕』展」（会期：令和7年8月1日（金）～8月22日（金）、会場：寒河江市美術館）に貸出

〔作品修復〕

- ・屋外作品《母の塔》について、内部調査及び高所作業車による塔外部の状態調査、FRP人形部の調査など整備を行う。油彩作品の新規額装を行う。

【自己評価】〔A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず〕

A	〔評価の理由〕 来年度からの休室に向け、原則作品の貸出を行わないこととしたため、今年度を含めて次年度以降の作品貸出の調整を行う必要があった。今年3月から開催する岡本太郎展については貸出を行うよう調整を進めた。今年度については、海外の美術館での岡本太郎撮影写真の画像貸出希望や国内の美術館での作品画像の貸出など、展覧会への画像の貸出依頼も見受けられた。年間を通し、円滑に貸出業務を行うことができた。 屋外作品の《母の塔》については、前年度に引き続き調査や整備を行った。特に今年度は塔の最上部まで上がることができる高所作業車を使用し、塔全体の状況を調査することができた。FRP人型の状態についても、塔との接合部を中心に調査を行い、併せて塔全体の3Dスキャニング、タイルの打診検査などを実施した。
---	--

【外部評価】〔A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず〕

〔委員記入欄〕

A	*評価できる点や課題など ・通常の作品の保存・管理に加えて、改修にともなう作品の移送等の準備により業務量が増えたと思われるが、適切に進められているように見受けられる。 ・ケ・ブランリー美術館での岡本太郎展への作品と画像データの貸し出しは、海外での岡本太郎の理解を高めることにつながる重要な貸し出しで、大いに評価できる。また国内の美術館への貸し出し、《母の塔》の整備など行うべきことをきちんと行っていた。 ・資料収集とも関連するが、この先、改修工事による休室が予定されているとのことで、こうした機会に所蔵品の状態点検ならびにリスト化、全体把握を試みられてはどうかと思う。 ・作品の保存や修復に充当する予算については、今後も実情に見合った予算を確保していくことが期待される。工事休館中は、不便なことも多々あると思うが、保存・修復の業務を継続することが望ましい。
---	---

4 普及企画

(1) 教育プログラム

事業名	普及企画
目標 (数値目標を 示せる事業は 記載)	・学校教育と連携し、学校現場の実情や、要望を踏まえた鑑賞プログラムにより教育普及活動を推進する。 ・近隣の大学、専門学校、幼保・小中高等学校、地域商店街などと連携した事業を行い、地域との交流を深め美術館事業の活性化につなげる。
内容	・学校等の団体見学、校外授業のカリキュラムに応じたガイドや鑑賞活動を行う。 ・教育機関で活用する教材の開発や貸出、活用例の紹介、出張授業を行う。 ・教育関係研究会、研修会等における講師の招聘を通じてより多くの教育機関と連携、協働した美術館活動を行う。 ・大学生、高校生をボランティアとして美術館イベントに参加させるとともに、自らが考え、すすんで行動する自主性を重視した活動を行う。

[実施状況・成果・課題と今後の対応]

《実施状況》

団体見学

学校団体や教育機関による鑑賞学習やグループ学習を、対象年齢や学習目的に応じて団体担当者と話し合いながら行うもの。団体の受け入れについては、展示室の広さを考慮し、一回の受け入れ人数を 80 人として 45 分間の鑑賞ツアーをここ数年間、継続して実施している。鑑賞プログラムは、対話型の“森の掟コース”、ワークシートを活用する“こどもの樹コース”に加え、昨年度まで実施していた教職員主導の“太陽の塔コース”に代わり設定した中学生・高校生を対象とした展示室を自由に鑑賞する“若い太陽の塔コース”を基本としている。最近では、対話をする場面とワークシートを使用する場面と併せた鑑賞プログラムも複数回実施している。

<今年度見学団体> (2026.3 月末日)

小学校	37 団体	3,897 名
中学校	24 団体	1,006 名
高校・大学	11 団体	216 名
特別支援学校	3 団体	40 名
幼稚園・保育園	8 団体	372 名
その他	9 団体	133 名
合計	92 団体	5,664 名

*詳細については、次ページの資料を参照

【参考】<R6 年度> (2025.3 月末日)

小学校	51 団体	5,618 名
中学校	14 団体	256 名
高校・大学	18 団体	419 名
特別支援学校	8 団体	125 名
幼稚園・保育園	6 団体	261 名
その他	7 団体	75 名
合計	104 団体	6,754 名

(資料)

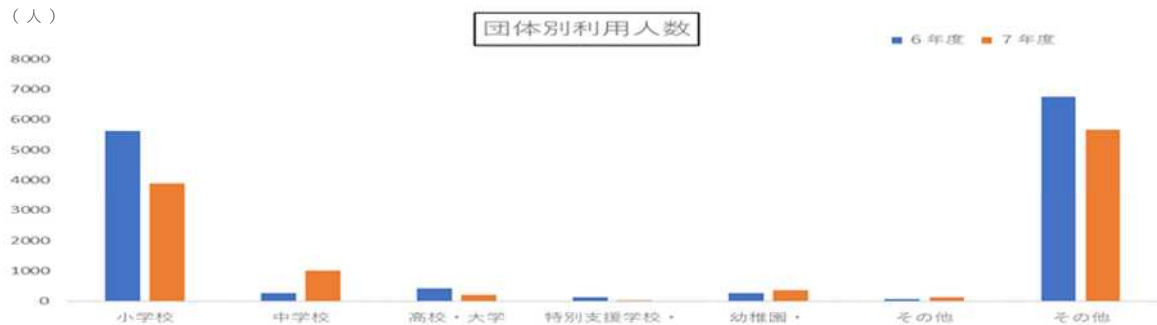
【令和6年度学校受入数】

月	小学校		中学校		高校・大学		特別支援学校・身障者施設等		幼稚園・保育園		その他		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	2	221	0	0	1	112	0	0	0	0	0	0	3	333
5月	2	287	0	0	1	22	3	54	2	160	1	4	9	527
6月	4	376	0	0	3	46	1	24	0	0	0	0	8	446
7月	2	145	3	41	0	0	1	7	1	9	1	24	8	226
8月	0	0	1	19	8	67	0	0	0	0	0	0	9	86
9月	5	789	1	17	0	0	0	0	0	0	0	0	6	806
10月	8	929	3	130	1	11	0	0	1	29	1	6	14	1105
11月	7	823	4	40	1	27	1	2	2	63	1	11	16	966
12月	9	1042	0	0	2	115	0	0	0	0	0	0	11	1157
1月	7	541	2	9	0	0	1	19	0	0	1	10	11	579
2月	4	355	0	0	0	0	1	19	0	0	1	8	6	382
3月	1	110	0	0	1	19	0	0	0	0	1	12	3	141
合計	51	5618	14	256	18	419	8	125	6	261	7	75	104	6754

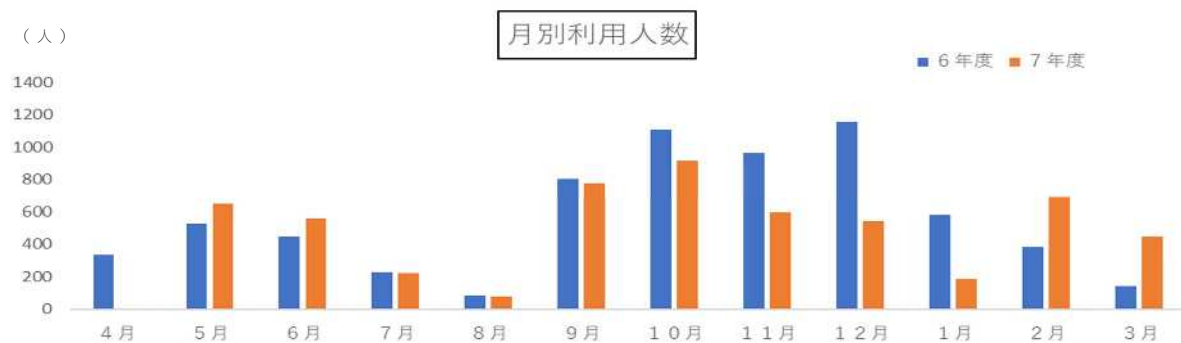
【令和7年度学校受入数】

月	小学校		中学校		高校・大学		特別支援学校・身障者施設等		幼稚園・保育園		その他		合計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	1	5
5月	1	157	2	321	3	63	0	0	1	107	0	0	7	648
6月	3	424	0	0	2	22	0	0	2	114	0	0	7	560
7月	1	135	3	34	3	25	0	0	0	0	1	27	8	221
8月	0	0	3	63	0	0	0	0	0	0	1	13	4	76
9月	5	448	1	221	0	0	2	38	2	69	0	0	10	776
10月	7	890	2	12	0	0	1	2	0	0	1	13	11	917
11月	4	416	1	18	2	71	0	0	2	64	2	29	11	598
12月	4	492	1	14	1	35	0	0	0	0	0	0	6	541
1月	3	151	4	15	0	0	0	0	0	0	1	18	8	184
2月	8	683	2	10	0	0	0	0	0	0	0	0	10	693
3月	1	101	5	298	0	0	0	0	1	18	2	28	9	445
合計	37	3897	24	1006	11	216	3	40	8	372	9	133	92	5664

(人)



(人)



出張授業（1校）

美術館を活用したいが、美術館から遠い、また、校外活動としての時間数を確保することができない等、様々な事情で来館が難しい学校を主な対象として、普及企画の職員が出張授業を行っている。今年度は、川崎市川崎区の中学校で行われたふれあい体験事業の1つの講座の講師として、貸出教材を活用した鑑賞授業と創作活動を行った。

出張展示（2校）

次年度、展示室休室期間中の普及事業の取組に向けて、試行的に市内の来館が難しい小学校2校にご協力いただき、美術館の教材化している画像作品を中心にした出張展示をお願いし、実施した。事前に学校から展示場所の広さや校内図についてFAX資料を提出していただき、電話やメールで詳細の打ち合わせを行った。2校とも展示作品に興味をもって鑑賞する姿が見られたと伺った。1校については、授業の中で、鑑賞と簡単な表現に結びつけ、効果的に活用していただいた。振り返りの言葉の中に、「実際に岡本太郎美術館に行ってみたい」という声も多く聞かれ、一定の成果があると感じている。

職場体験（5校）

中学生・高校生に美術館の運営についてその目的や内容を幅広く学んでもらうための活動。学芸員、教育普及、施設管理、受付・監視、ミュージアムショップの仕事等幅広く美術館業務体験を実施した。1日コースと2日間コースがあるが、今年度は、2日間コースでじっくりと体験に取り組むことを希望されるところが多かった。

高校インターン（4校）

実体験を通して、美術館で働く人や来館者と接し、美術館のもつ役割や目的、機能を知るとともに社会的なルールやマナーを学ぶ目的で行っている。今年度は、高校4校の体験希望があり、5名の参加者があった。学芸員の仕事、受付・監視の仕事、施設管理の仕事、普及の仕事を体験した。普及の仕事では、普及イベント（美術館裏探検）の手伝いも行った。また、「戦後80年《明日の神話》次世代につなぐ原爆×芸術」展を鑑賞し、感じ、考えたことをそれぞれがレポートにまとめる活動も行った。作成したレポートは、展覧会開催期間中、ギャラリースペースに展示し、来館した方に自由に読んでいただいた。夏休み期間と重なり、中学・高校の学生をはじめ来館者の様々な年代の方が関心をもってご覧になる様子が伺えた。

教員職場研修（3件）

岡本太郎や作品についての説明と貸出教材を利用した授業の進め方のレクチャーを、小学校・中学校の先生方に行い、岡本太郎の啓蒙と、美術館の教材を使用したアート活動を知ってもらうことを目的としている。川崎市小学校図画工作科研究会夏季実技研修を美術館で行い、展示室での鑑賞活動、アートカードゲームなどを行った後、表現活動を創作アトリエで実施した。今年度は、美術館コンテンツ「どこでもTAROアトリエ」の紹介と紙粘土を使った工作の実践事例紹介の後、表現活動が行われた。美術館作品の鑑賞を表現につなげ、川崎市美術館活用の鑑賞教育について共に学ぶことができるよい機会となった。また、川崎市立小学校教頭会研修会と神奈川県市立高等学校校長会研修会が当館で行われた。教頭先生に向けて、展示室での鑑賞活動とバックヤード見学、校長先生方に向けて、展示室での鑑賞活動の対応をした。教育普及活動の内容や貸出教材の紹介に併せて、美術館鑑賞と連携した授業例等、身近な美術館として効果的に活用いただくことができる情報や今後の展示室休室期間中の教育普及活動の予定についても直接説明させていただいた。

視覚障がい団体向け対応（2 件）

クラウドファンディングをきっかけに、昨年度より視覚障がい者団体の来館や事業協力の相談を受け、鑑賞サポートとして絵画・彫刻作品の解説と、デザインの椅子を身体で鑑賞する約 20 分の内容のツアーを提案するなどしている。今年度も継続して希望団体に対応を行った。

教材貸出（75 件）

岡本太郎紹介ビデオ・DVD、作品をプリントしたカード（A5 サイズ・A3）、岡本太郎の「遊ぶ字」をプリントしたカード（A3）他、「《太陽の塔》授業セット」「《明日の神話》授業セット」「《子どもの樹》授業セット」（岡本太郎が作品制作をしている様子のわかる写真や関連作品などを A3 サイズにプリントしパウチ加工した 20 画像のセット）に加え、B 倍サイズの大型作品の貸出しを行っている。初めて美術作品に触れる園児などにも岡本太郎作品に親しむことができる活用を考えた「作品とジャンケンセット」（A3）の貸出しも行っている。市内だけでなく、市外や県外からの貸出依頼も複数あり、授業のねらいに合わせた教材を選択し、有効に活用されているのを感じる。

オンライン教材 どこでも TARO アトリエ

「どこでも TARO アトリエ」は、コロナ禍の時期、自粛期間を自宅で過ごす多くの方へ向けて、来館しなくても自宅で岡本太郎の作品を楽しんでもらえるように始めたコンテンツである。遠方に住まれ、来館が難しい方にも気軽に楽しめる内容となっており、今年度も一件更新した。昨年度、文部科学省の「きみの好き！応援サイト たのしくまなび隊」に掲載されてから、コンテンツの認知が広がり、団体見学で来館された教職員の方から活用しているという声を伺う機会も多くあった。現在は一時公開休止中

配信期間：令和 2 年 4 月 19 日（日）～令和 8 年 2 月 18 日（水）

《成果と課題、今後の対応》

・昨年度の学校団体の利用状況から鑑賞コースの見直しを行い、今年度、新たなコースを設けた。これまで、教職員主導の「太陽の塔コース」を設けていたが、近年は利用が見られないことに加え、中学生・高校生による部活動やグループ単位での自由鑑賞の希望が増えていることを受け、「太陽の塔コース」に代えて、中学・高校の団体がより利用しやすい「若い太陽の塔コース」を新設した。限られた広さの展示室で、一回 80 人（最大 90 人）の受け入れは、一般来館者とのバランスを考慮した適切な運用であった。前期の見学団体件数、人数については、いずれも、昨年度よりも減った。その要因として、昨年度からの働き方改革に伴うドライバー不足によるバス予約の難しさが挙げられる。また、気温上昇による熱中症対策のため、高温期の校外活動を控える学校が増えていることも影響している。来館した先生方からは、校外活動の昼食場所について涼しい場所の確保の必要性が高まっているとの声が聞かれた。特別支援学校については、温度調整が難しい児童・生徒が在籍していることもあり、来館数が昨年度の半数以下にとどまった。気候が落ち着く時期になっても、大きな回復には至らなかった。一方で、中学校団体の利用件数は増加した。関西万博の開催や戦後 80 年という節目の年に合わせた展覧会内容であったこと、教科書資料として掲載されている岡本作品を時代背景の情報収集と共に鑑賞できる機会として、選ばれたことが背景にある。また、広報活動として、市内全中学校へのポスター配布、市内全小学校・高校・特別支援学校へのチラシ配布を展覧会開始前に行った効果もあったと考える。市内小・中学校との事前打ち合わせの際、ポスターやチラシをもとに展覧会内容を把握してから来館計画を立てている学校が多く、展覧会情報が広く周知されていることが確認できた。平和学習の一環として来館した学校もあった。今年度は、校種によっては、校外活動をより精選する動きがみられたものの、来館した児

童・生徒から「楽しかった」「岡本太郎さんの作品はどれもすごい！」「また来たい」など、手紙や鑑賞ガイドの時の声として届いている。改修工事終了後の再開時にもこれまでと同様に、学校及び学校関係機関との連携が円滑に進むように、展示室休室期間中においても可能な鑑賞プログラムの積み重ね、岡本太郎美術館の魅力を伝える普及活動を進めていく。

・「職場体験」「インターンシップ」については、キャリア教育の充実を目的に、2日間コースを希望する学校が多い。職場体験の内容にかかわる業務の関係職員と連携を図りながら、美術館業務の内容周知と共にやりがいや美術館の魅力などを体験を通して伝え、生徒自身が自分を見つめ、よりよい将来に向けた在り方・生き方の選択の一助となるようにプログラムを実施した。

・「教材貸出」については、来館での鑑賞プログラム実施に合わせて借りる団体が多いが、今年度は教材貸出のみの利用が昨年度より増加した。そのうち半数は、市外からの依頼であり、教材貸出について広く認知されつつある。また、教材の貸出のみを希望した学校の中には、校外活動として来館は難しいが、教材を借りて継続的に学習に活用したいというところもあった。展示室休室期間中においても、鑑賞の授業に効果的な活用ができる教材の紹介を継続して行う。

【自己評価】[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

A	【評価の理由】 一般来館者と受け入れ学校団体との兼ね合いをはかりながら、今年度も鑑賞環境を整えた適切な美術鑑賞を行えた。学校団体の受入れ件数・人数に関しては、諸事情により、昨年度と比べ、受入れ件数は16件、人数は約1,100名減となった。しかし、展覧会の内容に合わせて来館された団体、特に中学校の来館が増加した。展覧会内容に合わせて関心が高まる校種に向けた広報の仕方の工夫効果も感じられた。校外活動の利用は減少したが、これまで来館があった学校からの教材貸出の依頼や教職員同士の情報交流から初めて利用された市外学校団体もあり、普及の鑑賞プログラムの地道な成果があった。また近隣の横浜市・大和市・東京都からは、ここ数年にわたり継続的な利用が続いており、県内外の複数校種の来館希望や教材貸出の依頼がある現状を踏まえると、広く学校授業の中で岡本太郎を取り扱う件数は増加していると感じる。 中学校・高校に向けた事業、「職場体験」「インターンシップ」では、美術館に携わる職員と一緒に仕事場に立ちながら見学や体験をするプログラムを通して、専門性を感じつつ美術館に携わる様々な職業を知り、将来の職業選択の幅を広げ、「働く」ことの意義を感じることができるようになっている。参加した生徒達からは、体験後、美術館に対する興味・関心が高まり、それぞれが今までもっていた職業観・勤労観が広がっていることを、事後レポートから感じる。 また、昨年度美術館が行ったクラウドファンディングによる視覚障がい者への対応を今年度も継続し、可能な限り美術館として協力を行った。 さらに、展示室休室期間中の新たな普及活動の取り組みである出張展示の試行も行い、次年度の円滑な運用に向けて準備した。
---	--

【外部評価】[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

[委員記入欄]

A	*評価できる点や課題など ・各プログラムが適切かつ効果的に実施されており、安定感がある。他館が参照すべきレベルといえる。 ・多くの教育機関の受け入れを行い、丁寧に参加者とコミュニケーションを取り、岡
---	---

	本太郎作品だけでなく、アートへの導入機能を果たしている点を高く評価する。「若い太陽の塔」コースを設定するなど、参加者のニーズ・状況に合わせたデザイン更新も評価できる。実施後アンケートの結果を共有いただけると、アドバイスを参考になると思う。 ・未就学児から高齢者にいたるまで多様なプログラムを実践されている。今後の休室中の教育プログラムなども準備が進められていると思うが、視覚障害のある方への対応なども引き続き継続していただきたい。 ・教育プログラムの質量は充分であると思うが、マンパワーが十分に確保できているか否か、その点が気になるところである。マンパワーの欠如が、事業のマンネリ化をまねく場合もあることから、事業の目的や意義の設定を見直しつつ、ボランティアなどの人材育成も含め、長期的な視野で、さらなる充実を期待する。 ・岡本太郎美術館の存在価値は、「教育普及」にある。いつでも、どこでも太郎、「太郎＝芸術」、「太郎は何でもあり」、それでも岡本太郎という個性は存在する。
--	---

(2) 普及イベント

事業名	普及企画
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	・子どもから大人まで幅広く参加でき、美術や岡本太郎の芸術に親しめるイベントやワークショップ等を開催していくことで、「多くの人に開かれた美術館」というイメージの定着を図るとともに、より地域に根ざした美術館としての役割を果たす。
内容	・展示内容に合わせて幅広い層の来館者に対応する体験型のイベントや、年齢に応じたワークショップなどを工夫して開催することで、来館者のニーズに沿っていく。 ・イベントと連動した企画展など、教育普及に比重をおいた展覧会を開催することで、新たな層に向けた芸術に触れる機会を増やす。

[実施状況・成果・課題と今後の対応等]	
《実施状況》 ＜TARO 鯉に挑む！in ラゾーナ川崎プラザ＞ 日 時 4月6日（日）①10:00～11:10 ②12:30～13:40 ③14:30～15:40 展示期間 4月22日（火）～5月6日（火休） 内 容 川崎駅に隣接しているラゾーナ川崎プラザでの、出張ワークショップ「TARO 鯉に挑む！」を行った。鯉のぼりの制作前に美術館のご紹介も含んだガイダンスを行い、普段、美術館に行く機会が少ない家族連れにも当館に興味をもってもらうきっかけになったように見受けられた。 場 所 ラゾーナ川崎プラザ 5F 中央通路 料 金 無料 参加人数 ①子ども 17名（付添 18名） ②子ども 13名（付添 10名） ③子ども 22名（付添 20名）（当日受付）	

<TARO 鯉にいどむ！2025>

日 時	4 月 19 日（土）・20 日（日） 各日①10:00～12:00②13:30～15:30
展示期間	5 月 3 日（土祝）～6 日（火休）
内 容	常設展の作品をはじめ、屋外に展示している《TARO 鯉》を鑑賞し、アトリエでオリジナルの鯉のぼりを制作し、母の塔広場に展示する、大人気の恒例イベント。岡本太郎作品にエネルギーをもらい、参加者は自由勝手に思い思いの鯉のぼりを制作していた。母の塔前広場の展示は、これまでの鯉のぼりを含め、約 100 匹が泳いだ。
場 所	創作アトリエ、常設展示室、ギャラリースペース、母の塔前広場
料 金	無料（要観覧料）
参加人数	19 日 ①11 組（子ども 10 名、大人 12 名＊付添含む） ②12 組（子ども 11 名、大人 9 名＊付添含む） 20 日 ①12 組（子ども 10 名、大人 8 名＊付添含む） ②12 組（子ども 11 名、大人 13 名＊付添含む）（先着順/電話受付）

<みんなでつくろう！こどもの樹>

日 時	5 月 4 日（日祝）・5 日（月祝）各日 10:30～11:30／13:00～16:00
展示期間	5 月 5 日（月祝）～18 日（日）
内 容	今年で 6 回目となる、《こどもの樹》の顔を自由に描けるイベント。ゴールデンウィーク中の小さい子ども連れのご家族や大人の方にも参加いただいた。
場 所	ギャラリースペース
料 金	無料
参加人数	5 月 4 日 子ども 88 名、大人 106 名 5 月 5 日 子ども 114 名、大人 126 名 計 434 名

<やさしい TARO スケッチ倶楽部 vol. 2>

日 時	6 月 21 日（土）10:00～11:30
内 容	常設展示室で気軽な作品スケッチを行うイベント。最後には描いたものを見ながら、参加者の皆さん同士で“TARO 作品から感じたこと”をお話してもらうカジュアルなイベント第 2 弾。今回のお題は、「身に着けたい or T シャツにしたい作品」とし、常設展の内容と揃えた。スケッチ後の共有会では、自身のエピソードとともに、選んだ作品について話し合い、初対面の人が多い中、和やかな雰囲気であった。
場 所	ガイダンスホール、常設展示室
対 象	中学生～大人
料 金	無料（要観覧料）
参加人数	7 名（学生 5 名、大人 2 名）（先着順/電話受付）

<《森の掟》赤い怪物をつかまえよう!>

日 時	7 月 6 日（日） 11:00～12:00／13:20～14:20／14:30～15:30
内 容	《森の掟》の中心に描かれた赤い怪物を簡単な紙工作で制作するイベント。つくること、《森の掟》の新たな気づきにつながり、子どもから大人まで、つくることに夢中になっていた。

場 所	ガイダンスホール
対 象	小学生以上（小学3年生以下は要保護者同伴）
料 金	200 円＋観覧券
参加人数	49 名（子ども 17 名、大人 32 名）（当日受付/整理券配布）

<ワークシート 「太陽の塔 ふしぎ発見！」>

日 時	4 月 26 日(土)～7 月 6 日(日) 9:30～17:00
内 容	「岡本太郎と太陽の塔」展会期中、小さい子ども向けのスタンプラリー型ワークシートを配布。1970 年の万博当時《太陽の塔》の地下エリアに展示されていた《地底の太陽》《樹霊Ⅰ》《手の椅子》《戦士》《ノン》のスタンプを展示室内に配置し、スタンプを押しながら巡ってもらい、家に帰っても色塗りを楽しめる内容とした。
場 所	企画展示室
対 象	どなたでも
料 金	無料（要観覧料）
配布枚数	6,855 枚

<美術館裏探検>

日 時	7 月 31 日（木）・8 月 11 日（月祝）①11:00～11:40 ②13:30～14:10
内 容	普段見ることの出来ないバックヤードの一部を公開する子ども限定のイベント。普段は入れない場所に興味津々子ども達の様子が見られた。気になることを職員にたくさん質問を行う姿が見られた。
場 所	展示室、バックヤード
対 象	7 月 31 日は中学生／8 月 11 日は小学生
料 金	無料
参加人数	7 月 31 日 ①3 名 ②1 名 8 月 11 日 ①10 名（付添 2 名）②10 名 （先着順/電話受付）

<《明日の神話》塗り絵～奇跡の TARO アートをみんなのもとへ>

日 時	8 月 2 日（土）・3 日（日） 9:30～なくなり次第終了
内 容	メキシコで制作から一時、行方知らずとなっていた岡本太郎最大の壁画《明日の神話》は、30 数年ぶりに発見の後、日本に移送、修復された。そんな奇跡の作品を、ご自宅で平和について考えるひと時を大切にしてもらいたいと、当館所蔵の油彩画(壁画 3 分の 1 サイズ)をもとに制作した塗り絵を配布した。
場 所	常設展示室入口
対 象	どなたでも
料 金	無料（要観覧料）
参加人数	8 月 2 日 50 名 8 月 3 日 54 名（限定配布）

<学生限定 青春×芸術デー>

日 時	8 月 15 日（金） 9:30～16:30
内 容	戦後 80 年の節目となる終戦記念日、当館では学生限定で入館料を無料にした。企画展「戦後 80 年《明日の神話》次世代につなぐ原爆×芸術」の作品には、被爆者の証言

をもとに広島市立基町高等学校・創造表現コースの生徒が描いた「次世代と描く原爆の絵」が展示されていたため、近隣地域の学生へ平和を考える機会を提供できた。また、当日は Instagram のストーリーズを投稿するとオリジナルグッズが貰えるイベントも同時開催し、ティーンズの SNS 利用状況も把握できた。

対 象 高・大学生
料 金 無料
参加人数 50 名 （インスタイベント参加人数 10 名）

＜高校生向け岡本太郎美術館で「キャリア検索」

岡本太郎を知る、美術館の仕事を知る、自分を見つめる＞

日 時 8 月 21 日（木）10:30～12:00/13:00～15:00
内 容 近年、大学入試の自己推薦などで、高校生の頃から進路を考え職場体験やインターンに参加する傾向がある。美術館にも受け入れを求める声が多い。そこで、美術や美術館が好きだけどどのような仕事があるのか知りたい、公立施設の仕事を知りたい、将来の進路を考える高校生に向けた内容を行った。
場 所 ガイダンスホール、展示室、創作アトリエ、バックヤード
対 象 高校生
料 金 無料（要観覧料）
参加人数 5 名（先着順/電話受付）

＜第 14 回キッズ TARO 展—テーマ「未来を見た」—＞

作品募集期間 10 月 1 日（水）～10 月 19 日（日）＊消印有効
展示期間 11 月 1 日（土）～11 月 30 日（日）
内 容 自由な発想で、独創的な作品を作り続けた岡本太郎。その精神を受け継ぎ、子どもの無邪気で自由な表現の場として、14 回目となるキッズ TARO 展を開催した。今年のテーマは「未来を見た」とし、「未来」を描いた作品を募集。美術館ギャラリースペースで展示を行った。
場 所 ギャラリースペース
対 象 中学生以下
作品サイズ 四つ切サイズ（38cm×54cm・縦横自由）以内
応募点数 103 点

＜2025 お月見フェスティバル オープン TARO アトリエ テーマ：《母の塔》を描こう！＞

日 時 10 月 4 日（土）10:00～11:30/13:00～15:30
内 容 美術館のある生田緑地で開催される「生田緑地お月見フェスタ」で、美術館の創作アトリエをオープン TARO アトリエとし、「母の塔」を描くイベントを行った。いろんな種類の紙や色材を使い、思い思いにオリジナルの「母の塔」作りを、子どもから大人までたくさんの方に楽しんでもらった。
場 所 創作アトリエ
対 象 どなたでも
料 金 無料
参加人数 129 名（子ども 62 名、大人 87 名） （随時受付）

＜岡本太郎を巡る雑談型アート観賞＞

日 時	11月1日（土）①10:00～11:30 ②13:00～14:30
内 容	ほとんど目の見えていない石井健介さんがファシリテーターとなり、見える世界と見えない世界をつなぐ雑談をしながらアート観賞をするプログラム。石井さんの投げかけをきっかけに参加者みんなで和気あいあいとお話ししながら、新しい岡本太郎の魅力を発見するひと時を楽しんだ。
講 師	石井健介（ブラインドコミュニケーター）
場 所	ガイダンスホール、常設展示室
対 象	小学4年生～大人
料 金	無料（要観覧料）
参加人数	①8名（大人8名） ②11名（子ども1名、大人10名）（先着順/電話受付）

＜使えない道具を作ろう！＞

日 時	11月16日（日）①10:00～12:00 ②13:30～15:30
内 容	TARO作品の鑑賞体験をベースに、「もともと使えるはずのもの」をあえて使えなくした不思議な道具を作るワークショップ。発泡ウレタンなどの軽い素材を成形し、上から紙粘土で覆って彫刻にするという簡単ながら珍しい技法で、参加者の保護者からも評判が良かった。最後には常設展示室内・彫刻の部屋の床で、作品鑑賞会を行い、参加者は講師から一言ずつコメントをもらっていた。
講 師	野村絵梨（第27回TARO入選作家・彫刻家）
場 所	ガイダンスホール、常設展示室、創作アトリエ
対 象	小学生以上（小学3年生以下は要保護者同伴）
料 金	1,000円＋要観覧料
参加人数	①15名（子ども8名、大人＊付添含む7名） ②17名（子ども7名、大人＊付添含む10名）（先着順/電話受付）

＜専修大学生企画 観て 感じて つくる 自分だけの太陽の塔＞

日 時	11月23日（日）①10:30～12:00 ②13:30～15:00
内 容	専修大学・問題解決型チャレンジプログラムの学生によるイベント。岡本太郎の作品を観て、著書を読むことから始め、学生間での話し合い、美術館スタッフとの打合せを経て、展示室内で太郎の考えや作品を取り入れた鑑賞活動を行った後、紙コップを使って、自分だけのオリジナル「太陽の塔」を作るワークショップを開催した。自分の未来、現在、過去の顔をどんな風に描こうかじっくりと考え、楽しみながらつくる姿が見られた。親子で参加したところは、イメージを互いに話し合い、時折笑顔を見せる様子が伺われた。
場 所	創作アトリエ・展示室
対 象	どなたでも
料 金	無料（要観覧料）
参加人数	①27名（子ども14名 大人＊付添含む13名） ②28名（子ども11名 大人＊付添含む17名）（先着順/電話受付）

くところこ美術館ツアー&ワークショップ～音で遊んで身体やわらか～>

日 時	12月7日(日) 10:30～12:00
内 容	小さいお子さんと楽しむワークショップ。太郎さんの作品と一緒に見て、講師の演奏する楽器の音色やメロディーに合わせて、身体を動かし、芸術を身体いっぱい感じて表現したり、自分だけの音作りをしたりして親子で楽しむ姿が見られた。
講 師	寒川晶子(ピアニスト)
場 所	ガイダンスホール・常設展示室・創作アトリエ
対 象	3才以上の未就学のお子さんご家族の方
料 金	300円+要観覧料
参加人数	14名(子ども7名、大人7名) (先着順/電話受付)

＜雑談型アート鑑賞 手で見る手で創る 岡本太郎の世界＞

日 時	1月11日(日) 13:00～16:00
内 容	ほとんど目の見えていない石井健介さんがファシリテーターとなり、見える世界と見えない世界をつなぐ雑談をしながらのアート鑑賞をするプログラムの第二弾。アイマスクをしての太郎彫刻を鑑賞では、今回は特別に陶器の作品で指触鑑賞を取り入れた。また、見えない状態で実際に粘土を使用して「顔」をテーマにした立体作品も創作。見えないからこそ、自分を深く見つめながらの深い創作の時間となり、出来上がった互いの作品について話す時も、共通の体験をしたからこそ話の輪がひろがり、石井さんを中心に作品の新たな楽しみ方を体験できるイベントとなった。
場 所	ガイダンスホール、常設展示室、創作アトリエ
対 象	小学3年生～大人
料 金	1,000円+要観覧料
参加人数	8名(子ども1名、大人4名 関係者3名) (先着順/電話受付)

＜NOCTY ワorkshop 《坐ることを拒否する椅子》オリジナル缶バッジを作ろう！＞

日 時	2月14日(土) 10:40～16:00
内 容	「挑戦するぞ」「負けないぞ」という気持ちの時の顔をテーマにして、オリジナル制作用紙に顔を描いて切り取り、缶バッジにするワークショップ。川崎市・溝の口にあるノクティブラザ5階の連絡通路で行い、美術館に来た事がない方にも岡本太郎やその作品を周知することが出来た。
場 所	NOCTY 5F 連絡通路
対 象	どなたでも (参加条件: 保護者の方がNOCTY ポイントアプリ会員限定)
料 金	無料
参加人数	123名(当日受付)

＜祝! TARO 生誕祭 115＞

日 時	2月23日(月祝) 9:30～17:00(最終入場 16:30)
内 容	太郎さんは1911年2月26日生まれ。今年は“祝! TARO 生誕祭 115”として、115歳のお祝いイベントを5つ開催。

(1) 太郎で彩る

内 容	TARO グッズを身に着けて来館された方に、オリジナルグッズをプレゼント。市販の T シャツやバッグ、缶バッジにキーホルダーと、オリジナリティー溢れる手作り TARO グッズを身につけた来館者で館内全体がお祝いムードとなった。
場 所	エントランス 受付
対 象	どなたでも
料 金	無料（要観覧料）
参加人数	115 名

(2) TARO 愛メッセージプロジェクト

日 時	2 月 23 日（月祝）～3 月 29 日（日）9:30～17:00（最終入館 16:30）
内 容	来館者の太郎さんや作品、美術館への思いを込めた絵や言葉のメッセージをお寄せいただき、TARO 愛を広げるプロジェクト。集まった彩り豊かで温かなメッセージは、館内のギャラリースペースに掲示したり、SNS 等で紹介したりした。
場 所	ギャラリースペース
対 象	どなたでも
料 金	無料
参加人数	1,628 名

(3) ウルトラ TARO クイズ

内 容	太郎さんの作品や活動からのクイズに挑戦するイベント。午前は「ウルトラ TARO クイズ for キッズ」として太郎クイズ初級編。午後は全て TARO ファンに向けた太郎クイズ上級編。
場 所	ガイダンスホール
対 象	①小学生以下 ②どなたでも
料 金	無料
参加人数	135 名（当日受付）

(4) バボット《よろこび》の展示

期 間	2 月 21 日（土）～2 月 23 日（月祝）
内 容	岡本太郎の油彩《よろこび》をモチーフとした造形家の高橋士郎が考案した空気膜構造の動く彫刻バボットをエントランスに展示した。
場 所	エントランス
料 金	無料

(5) 岡本太郎美術館×かわさき^{そら}宙と緑の科学館 「無限に透明な世界 太郎が見た欧州航路の冬空」

期 間	2 月 23 日（月祝）16:30～（約 45 分間）
内 容	“かわさき宙と緑の科学館”のプラネタリウムとコラボレーションし、生誕祭特別プログラムを上映した。今回は 1929 年（昭和 4 年）12 月、両親の仕事の関係等でフランス留学をした 18 歳の岡本太郎が、そのパリに向かう航路でみた星空を体感する内容となった。初の試みであったためか、多くの TARO ファンで賑わった。
場 所	かわさき宙と緑の科学館・プラネタリウム

内 容	遅いミニ四駆を作り、遅さを競うレースを開催するワークショップ
場 所	創作アトリエ、母の塔下
対 象	小学生以上（小学3年生以下は保護者同伴）
料 金	1,500 円
参加人数	41 名（保護者含む、先着順/電話受付）
「遅刻のいいわけアワー ～遅れて御免！～」	
日 時	3 月 22 日（日） 13:00～15:00
内 容	来館者に遅刻の言い訳を募り、品評会を開催する参加型イベント
場 所	ギャラリースペース
料 金	無料
参加人数	173 名
(3)そんたくズ（田中寿司ロボット、ペットロスター井上）	
「たっぷり！！TARO 大感謝祭開催記念お笑いコントショー『マルもりのおきて～自分の中の毒で死ぬ～』」	
日 時	3 月 21 日（土）13:00～、14:00～、15:00～、16:00～（全4回） 3 月 22 日（日）11:00～、12:00～、13:00～、14:00～、15:00～、16:00～（全6回）
内 容	TARO 賞で入選した「コントショー」を、たっぷり TARO 大感謝祭に合わせた内容で開催するパフォーマンスイベント
場 所	ガイダンスホール
料 金	無料
参加人数	3 月 21 日（土）150 名、3 月 22 日（日）225 名
(4)TARO マルシェ	
日 時	3 月 22 日（日） 10:00～16:30
内 容	TARO 賞作家等がテント出店し、販売やワークショップなどを行う
出店作家	神村あづさ、斎藤 翼、園部恵永子、仲村浩一、西 除闇、横井山 泰、吉元れい花、他
場 所	母の塔前広場
料 金	無料
参加人数	365 名
(5)音楽ステージ	
「カフェ前コンサート」	
日 時	3 月 21 日（土） 12:30～13:00
内 容	美術館のカフェのテラス席近くでギター弾き語りの演奏を行う
出 演	しゅがあみ
場 所	カフェテラス席前
料 金	無料
参加人数	80 名
「母の塔前ライブステージ」	
日 時	3 月 22 日（日） 10:00～16:30
内 容	美術館のカフェのテラス席近くでギター弾き語りの演奏を行う

出 演	ご隠居's、西 除闇、相州雅屋、赤木りえ、井上侑、yuzuna、滝沢ジョー、Aisa&TAKA
場 所	母の塔前広場
料 金	無料
参加人数	410 名

《成果と課題、今後の対応》

- ・人気の定例イベントが多くあるが、展示内容に即した趣旨のイベントを心がけ、参加者の関心を掘り下げるような意欲的な企画も実施している。今後も、定例イベントについてもブラッシュアップをしていきながら、さまざまな角度から作品の魅力に気づけるようなイベントを検討する。
- ・年代別の内容を幅広く展開することを心掛け、未就学児を対象としたイベントやワークシート配布、小学生向けの作品制作系のイベント、美術館の来館層として少ない高校・大学生を対象とした作品や美術館を深く知れる内容を積極的に行った。今後も展覧会に即しつつ、それぞれの年代に向けた内容を考えながら、イベントの形態を検討していきたい。
- ・近年の試みとして、ハンディキャップのある方に対してイベントを検討実施している。今年度は、昨年度より繋がりができたブラインドコミュニケーターの方とのイベントを一緒につくり上げることで、スタッフだけではつくれない内容や雰囲気のイベントが実施できた。

【自己評価】[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

A	【評価の理由】 毎年の定例イベントに加え、展示内容に即した趣旨のイベントも開催することができた。イベント内容は、鑑賞ツアー、制作、ワークシート、音楽、クイズ、キャリア教育、ブラインドコミュニケーターを招いたものなど、多様なプログラムを実施した。今年度は、これまで0歳から3歳の乳幼児を対象としていた鑑賞ツアーを拡張し、4歳以上の未就学児を対象としたイベントも実施した。これにより、より幅広い年齢層の方々が美術館に足を運ぶきっかけを提供することができた。 また、簡単な制作を体験できる「オープンアトリエ」を実施した。親子や友人同士で訪れた子どもたちが熱心に創作する姿も見られ、美術館に気軽に立ち寄ってもらえる場として活用できた。今後は、次年度以降の休室期間にも継続的に美術館に足を運んでもらえるよう、アトリエの活用を進めていきたい。 さらに、参加者の興味・関心をより広げ、深めることを目的とした外部講師によるイベントも積極的に実施した。障がいをもつ方対象のイベントについても、昨年度の実績を踏まえて内容をブラッシュアップし、鑑賞ツアーに加え、制作を取り入れたワークショップも実施した。その結果、参加者の満足度は高かった。 加えて、遠方にお住まいの方も参加できる「キッズ TARO 展」はテーマを設定して実施した。タローマンの効果もあり近年参加者数も多く、今後も美術館の状況にあわせながら子ども達の表現の場を可能な限り提供していきたい。 次年度より改修工事が始まるため館内の使用可能な場所は限られるが、館内外で岡本太郎作品に親しむことができるイベントを、可能な範囲で企画・実施していきたい。
---	---

A	*評価できる点や課題など ・教育プログラムと同様に各プログラムが適切かつ効果的に実施されており、他館が参照すべきレベルといえる。 ・非常に数多くのプログラムを行い、かつ、新たなプログラム実施にもチャレンジすることで、できるだけ参加者のニーズや思いに寄り添うプログラムデザインと実施を行っていることを評価する。こちらも実施後アンケートの結果を共有いただけると、アドバイスをを行う参考になると思う。 ・幅広い層への普及イベントを実践しているなかで、企画展や教育に比重を高めていることは今後の来館者を育てていく姿勢が見られて評価できる。 ・普及イベントについても、「教育プログラム」と同様のことがいえる。さまざまな年代をとりこみ、じつに幅広い設定、想定を行いながら、イベントを構築している点を高く評価する。 ・岡本太郎美術館の存在価値は、「教育普及」にある。いつでも、どこでも太郎、「太郎＝芸術」、「太郎は何でもあり」、それでも岡本太郎という個性は存在する。
---	--

5 広報活動

事業名	広報活動
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	・既存の広報ツール（広報誌「TARO ニュース」・美術館 HP・オンラインコンテンツ・公式 SNS 等）を活用し、美術館従来の魅力の発信・持続的な広報に努める。 ・情報リリース機会や展覧会内容にあわせた広報手段・広告を検討し、より効果的な広報活動および来館促進を行なう。 ・時勢や流行について意識・研究し、美術館および展覧会の広報機会として活用できるよう努める。 ・広報案件について適切な対応を行い、美術館の更なる魅力発信機会として活用する。
内容	【広報活動】 ●展覧会広報 ・展覧会プレスリリース作成・発信による新聞・雑誌・WEB への告知（郵送・メール） ・展覧会プレス内覧会の実施 ・展覧会会期中の主要マスコミへの掲載依頼、取材受付・対応 ・展覧会ポスター・チラシを他美術館等関連施設へ配布・掲示 ・小田急線各駅・東急線各駅・商店街・緑地内へのポスター・チラシ配布・掲出 ・近隣大学へのポスター・チラシ配架 ・近隣書店へのポスター・チラシ配架 ・武蔵小杉エリアマネージメント デジタルサイネージへのポスター掲出 ・ノクティブラザへのポスター・チラシ配架 ・ノクティブラザ連絡通路内パネル展示 制作・掲出 ・ノクティブラザ屋外ビジョン動画掲出 ●市内広報 ・市アゼリア広報コーナー展示の制作・掲出 ・市ホームページビジュアルエリア掲出

	・川崎駅アゼリアビジョン動画掲出 ・川崎市河川情報掲示板動画掲出 ・川崎市内施設情報掲示板ビジュアル掲出 ・かわさき FM・ラジオ CM の収録および掲出 ・多摩区役所アトリウムにてパネル・ポスター掲出 ・川崎市役所本庁舎復元棟 2 階 Museum+205 にてパネル展示 ●展覧会広告 ・YouTube 内 CM 掲出 ・AbemaTV 内 CM 掲出 ・はいから Est 神奈川版(読売新聞折込広告)掲出 ・「散歩の達人」広告掲出 ●定型広報 ・広報誌「TARO ニュース」刊行 ・美術館情報のマスコミへの掲載依頼、取材受付・対応 ・館内ツールの活用による広報（美術館 HP、SNS 等、外部メディアページへの登録・配信） ※在宅コンテンツ（どこでも TARO アトリエ）の配信・利用促進（美術館 HP） ※第 29 回 岡本太郎現代芸術賞 作品募集要項・申込受付等、作成・掲出（美術館 HP） ●その他 ・JR 東海 CM「#東京ゾクゾク」撮影受入・対応
--	---

[実施状況・成果・課題と今後の課題]	
●企画展「岡本太郎と太陽の塔—万国博に賭けたもの」	・万博をテーマにした展覧会であることから、広報活動も同時期開催の「大阪・関西万博」を意識しながら実施した。万博記念公園との連携広報を試み、先方の広報担当者とコンタクトを取り、互いの広報掲出物を送付、掲出する等のやり取りを行った。相互の広報掲出物は来館者に非常に好評で配布後間もなく捌けてしまった。来館者アンケートにも 70 年代万博や大阪・関西万博、太陽の塔にいった経験やこれから行く予定があるとの声が多くみられ、親和性のある活動となった。 ・有料広告では、「散歩の達人 2025 年 4 月号」裏表紙の広告枠と「万博」とその周辺キーワードの注目度・ウェブアクセス数の上昇を見込み、「大阪・関西万博」を意識したセグメントキーワードを盛り込んだ YouTube 広告を実施した。 ・「岡本太郎と太陽の塔—万国博に賭けたもの」ではプレス内覧会での取材も合わせて、新聞紙面にて多く取り上げられたことで新聞購読層と 70 年代万博来館世代がマッチし、来館につながった。会期中も取材希望連絡が途絶えず、連日 2～3 社の来館対応を行った。特に媒体効果が著しかったのは 6 月第 3 週で、NHK 総合「みみより！解説」、NHKFM「ラジオ深夜深夜便」、FM ヨコハマ「lovely Day」、日本経済新聞、産経新聞紙面など大手媒体での展覧会紹介が集中、比例してホームページアクセス数も上昇、美術館への問い合わせも複数いただき、週末には来館者 1,000 人以上を記録した。 ・会期中の 5 月 16 日には文化審議会において「太陽の塔」が重要文化財指定へ答申された。情報公開から間もなく美術館公式 X でもよろこびの声をポストし、当該ポストは 20.3 万 imp、6,500 件超のリアクションを獲得した。 ・太陽の塔重要文化財指定に際して、共同通信社や公明新聞社の取材に応じたほか、答申の発表・官報登録にあわせて X のポストを投げ、それぞれ imp20.5 万件超・リアクション 6700 件超、imp9.4 万件

超・リアクション 3500 万件超を獲得した。

●「戦後 80 年《明日の神話》次世代につなぐ 原爆×芸術」展

- ・万博展が大阪・関西万博や重要文化財指定の影響もあり会期を通じて取材依頼が絶えなかったことを踏まえ、当該展においては開幕前から積極的にプレス内覧会の招集をした。当日は 36 社の参加があったほか、翌日の展覧会初日にも 3 社、関連イベント開催日等にも数社ずつと、イベントに付随する形での広報対応を行うことができたため、学芸や広報のスケジュール負担を軽減しながら、掲載媒体・広報機会を多く得ることができた。
- ・《明日の神話》をキービジュアルとした広報掲出を行った。市内施設に掲出するビジュアルや該当期間の広報誌の表紙として中央の骸骨をトリミングし採用。毎号好評の広報誌であるが、通例以上に早期に配布終了となった。展覧会開幕前日には、公式 X にて渋谷マークシティの壁画を紹介しながら展覧会の来館を促すポストを仕掛けたが、imp18 万件超・リアクション 2,600 件超と反響を受けた。会期直前には市役所内でパネル展示の機会を得たため、学芸資料から《明日の神話》複製パネルを展示した。
- ・「戦後」をテーマにあらゆるメディアが特集や企画を実施することを見込み、「戦後」をテーマにした番組等へ直接プレスリリースを投じたほか、番組放送スケジュールを調査し、放送時間帯に X のトレンドに展覧会キーワードがあがることを見込み、予約投稿を設定し、複数のバズ投稿に結びついた。
- ・有料広告ではターゲティングを意識し、読売新聞折込広告はいから Est 神奈川版、YouTubeCM、AbemaTV での CM を採用した。読売新聞折込広告はいから Est については、万博展の広報成果を受け、「原爆」のテーマに関心の深いシニア層に向けて 87 万部の広告を投じた。YouTubeCM については 25 周年展・万博展でも採用した広告であるが、今回はより効率的な運用を目指し、ターゲットである T 層・MF1 層および視聴リアクションのよい MF3 層に絞った配信を行った。AbemaTV での CM については展覧会ターゲットであるティーンに流行の番組内での放映を期待し、広告を投じたが、美術関心層外に投じた挑戦的な試みでありながら視聴完了率 97% という結果となった。
- ・展覧会関連企画として普及企画班による学生向けイベント「青春×芸術デー」が企画されたが、原爆展広告として PR 動画を掲出した AbrmaTV やノクティプラザ屋外ビジョンの放映では通常版 PV に「青春×芸術デー」を追加した PV に差し替えを行うなどターゲットや掲出期間により細やかな工夫を行った。

【SNS 年間】※12 月 31 時点

	件数(年間)	リーチ数 (月平均)	フォロワー数
Facebook	16	1,877	1,689

	件数(年間)	インプレッション数 (月平均)	フォロワー数
X	425	—	15,704

	件数(年間)	リーチ数(月平均)	フォロワー数
Instagram	86	26,131	11,260

●JR 東海 CM 撮影受入

「JR 東海 CM #東京ゾクゾク「アート」編」のロケ地として依頼を受けたが、放送時期が展示室長期休室直前ということもあり、撮影場所の検討を慎重に行った。撮影当日は 20 台弱の搬入車、70 名以上のスタッフを受入しつつも、綿密な打ち合わせとスケジュール管理により、スムーズに実施することができた。情報公開後の公式 Youtube 上での再生回数は 2 週間で 387 万回再生を突破する等、休室前最後の展覧会への来館促進・好契機となった。

●常設展「岡本太郎 生きることは遊ぶこと」

展示室休室前最後の常設展ということもあり、他の企画展のプレスリリースタイミングや新着情報の発信に際してこまめにプレスリリースの更新を行い、積極的な発信を目指した。会期序盤から新聞社 4 社で紹介いただいたほか、更新版リリースを見たメディアから問い合わせが絶えない。JR 東海 CM 公開にあわせてテレビ愛知「キン・ドニーチ」、テレビ朝日「グッドモーニング」、NHK「中川家礼二の沿線いちオシ！」などで紹介いただいた。

【自己評価】[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

	【評価の理由】
A	地域施設や外部媒体と連携しながら限りある広告費の中で新たな広報手段を開拓した。広告費についてはこれまでの広報活動における知見と市場調査の成果による双方から限りある広報費用の中から最大・最善の広告を打つことができた振り返る。ホームページ・SNS・広報誌についても展覧会や時期を考慮し、広域な情報発信を目指した。今年度は特に「大阪・関西万博」「太陽の塔の重要文化財指定」「戦後 80 年」「タローマン映画化」「展示室休館前」など様々なキーワードについて、時流を踏まえながら上手く広報に取り込み、効果的な発信に昇華できたと考える。

【外部評価】[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

[委員記入欄]

	*評価できる点や課題など
A	・少ない予算ながら、タイミングと内容に工夫を重ねてここまでの効果を得ることは稀有なことといえる。 ・万博や太陽の塔重要文化財指定など、フックになるトピックを生かして、日々の細々としたやり取りも含め、多様な広報・広告活動を行っていることを評価する。 ・SNS の活用、特に x や Instagram がうまく活用されていると思う。Facebook から、若い世代に使われている TikTok に移行するということも検討しても良いかと思う。 ・ここ数年の積極的な広報活動の成果が表れてきているように思われる。外部媒体や施設との連携や時流を踏まえた広報が目に見えるかたちで得られているのはよい。工事中、活動をしていないという印象がもたれやすいので、ぜひ今後の改修中、改修後へとつなげていただきたい。 ・この数年間の取り組みについていえば、時勢にあった手法へと推移していることを評価したい。 ・アンケートは、企画展ごとに対面アンケートで、基本的質問のほかに、館全体のホスピタリティ、希望するサービス、ミュージアムショップなどについても問いを設け、館の総合力を評価し、また運営の参考にできる意見を集約することが望ましい。 ・きめ細かな広報活動をされている。

6 施設・設備の整備

事業名	施設・設備の整備
目標 (数値目標を示せる事業は記載)	開館から 26 年が経過し、建物・設備が老朽化しており、施設の長寿命化及び作品の保全、市民の施設利用の利便性の向上、安全・安心の確保を図るため施設の計画的な更新・補修を行う。
内容	・事務室横等植栽仮防水工事 ・自動ドア補修工事 ・エアハン用ポンプ配管補修工事 ・エレベーター補修工事 ・冷水器更新工事 ・空気熱源ヒートポンプ冷媒補充 ・展示室照明設備長寿命化整備（光ファイバー照明等 LED 化） ・窒素ガス消化設備長寿命化整備 ・空気熱源ヒートポンプ設備整備等

【実施状況・成果・課題と今後の対応等】
・今年度も照明 LED 化を進め消費電力の削減につなげたほか、第 1 収蔵庫のガス消化設備のボンベ交換等を実施するなど、老朽化した設備への対応を着実に進めた。また、引き続き設備等の経年劣化に伴う緊急対応案件はあるが、美術館運営に支障をきたすことなく迅速に実施することができた。 ・今後も予定している整備を着実に進めていくとともに、緊急対応案件にも適切に対応していく必要がある。併せて、今年度末に着手する防水改修工事の取組を進めていくとともに、特定天井や空調設備等の改修に向けた設計等の取組を着実に進めていく。

【自己評価】 [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

A	【評価の理由】 ・当初予定していた案件は概ね実施できた。 ・緊急対応案件にも美術館運営に支障をきたすことなく迅速に実施した。 ・老朽化した施設や設備の速やかな改修に向け、防水改修設計を完了し、防水改修工事に着手したほか、特定天井及び空調設備等の改修に向けた設計に着手した。
----------	---

【外部評価】 [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

[委員記入欄]

A	*評価できる点や課題など ・大規模改修前であれば、さまざまな経年的な不具合が生じていたのではないかと推察されるが、運営に影響を及ぼすことなく、適切に整備が行われていると思う。 ・当初の予定通り、着実、丁寧に整備を進めている点を評価する。 ・表からは見えない裏方的な業務だが、施設・設備が適切に整備されているからこそ美術館としての活動が行えるので、緊急事案への対応も含め、引き続きよろしくお願いしたい。 ・開館からの年数と周囲の自然環境を考えると、建物施設の老朽化などはやむを得な
----------	---

	いことと思われる。この先、改修工事が計画されているということで、安全かつ効率的な工事が行えるよう、各担当が連携して進めていっていただきたい。 ・建物の老朽化対応はもちろんのこと、バリアフリー化、お手洗いの適正な改善、授乳室の設置、照明計画など、少子高齢化社会をふまえた対応が重要である。 ・インバウンド対応として、サイン計画なども大切であり、さらに利便性の高い施設として展開することを期待する。
--	---